

金曜コラム - 生活体育の温度

李ギョンリョル(体育市民社会の自由活動家)

暑く、あまりにも暑い。熱帯夜の温度が体温よりも高い。恐ろしい暑さだ。エアコンが冷房機器ではなく医療機器になった。外に出るときに近い距離でも無条件にタクシーやバスに乗らなければならない。公共交通機関がなく徒歩で移動をすると本当に髪が太陽の光で焼かれてしまいそうだ。私の住む家から駅までの距離は 2.5km である。6 月だけでもかなり歩いて通った。スマートフォンに搭載された一日ウォーキング測定プログラムの統計を見ると、6 月の平均歩数は 10,500 歩と集計された。だが、7 月は 6,000 歩と前月比約 40% 減少した。始まったばかりの 8 月は 4000 歩に過ぎない。動きの減少で体内にほこりがどっさりたまる。だるい状態が持続すると神経が鋭敏になる。何かの事で神経を尖らせるのではなく、黙って座った状態自体がイライラを誘発させる。夏の旬の果物で体温を下げるように、夏の季節の運動で体のイライラを減らす。夏の代表果物がスイカなら、運動は室内水泳である。週末に映画館に行くのと同じように室内体育館で水泳をしたい気持ちが真夏のトマトのようにぷりぷりと湧く。

ところがだ。私の住む人口 10 万都市、京畿道東豆川市には屋内プールがたった一つある。それも民間。一日入場料金 7,000 ウォンであり、しかも日曜日には門を開けない。他の地域国公立プールの場合、一日の入場券が 4,500 ウォン程度で日曜日と祝日は一日中、自律水泳(訳注:講習なしの自由水泳)として運営をする。プール避暑をしたい人には国公立のプールは水泳ゴーグルに湿気を与えてくれてありがたいところである。国公立プールの利点をもう一つ挙げるとまず安全性。水質管理をはじめ週末の安全作業が厳しい民間より高いレベルの安全性を確保しているということ。2014 年、東豆川民間屋内プールで週末に自律水泳をしていた 5 歳の子供が溺死する切ない事故があった。事故当日出勤をした水泳インストラクターとプールの代表など関係者が拘束されたり、罰金を課してプールは 3 ヶ月ほど閉場した。もしここで週末の自律水泳を再開すると言っても安定性を考えると利用は消極的になるだろう。

5 月末の第 7 回全国同時地方選挙を迎えて東豆川地方新聞に民間屋内プールの限界を指摘し、国公立プールの必要性を表明する文を投稿した。東豆川市は今年 12 月の竣工を目標に 1 万 9847 m²の敷地に地上 2 階にもなる国民体育センターを建設中である。東豆川複合火力発電所の建設に伴う産業通商資源部の特別支援金 125 億ウォンと国民体育振興基金 32 億ウォン、合計 157 億ウォンが投入された。問題はこの程度の規模の体育館でも、まさに「あずき無しの蒸しパン」は今の気候で考えるだけで汗が出るから、実に「あずき無しのカキ氷」のようにプールのない国民体育センターとのこと。実は国民体育センターの建設が台頭し始めた時期は、2013 年である。当時東豆川市役所は国際規格のプールとして建てるとし、京畿道体育大会誘致のための総合スポーツセンターを建てるとしたが、住民からの予算浪費、運用赤字という叱責を受けたりした。いざ該当地域の住民はプールはおろか風呂一つだけでも建ててくれれば良いという立場であった。国民体育センターが入ったグァンナムドンは東豆川と抱川の境界地域として郊外に位置しており市のなかで人口が最も少ないが、高齢者人口の割合は高いところである。グァンナムドンから最も近い銭湯に行こうとすると 5000 ウォンにもなるタクシー料金を払わなければならない現実である。「グァンナムドン再生」の一環として作られた協同組合で毎年年末に実施するアンケート調査である「グァンナムドン住民が市役所に望む」

の結果を見ると、常に上位に入る答えは「近所に銭湯を作ってくれ」だった。

国民体育センターの全容は2016年7月に「国の市場」サイトに上げられた「東豆川国民体育センターの建設事業の基本及び実施設計役務設計公募指針」に記されていた。体育施設はバスケットボール、バレーボール、バドミントンだけだった。さらに悪いことに、シャワー施設も住民がそう望んでいた温水がないことが明らかになった。ただ汗を流すシャワーのみぽつんと設置された施設だった。2年が過ぎた後に、この事実を知った私はグアンナムドン地方新聞に国民体育センターの建設問題に言及し、怒りの文を書いて送った。小学校の生存水泳（訳注：救助隊が来るまで水にできるだけ長く浮いている方法などを学ぶ）が政府体育政策の核心課題となった時期に、学校のプールの建設どころか157億ウォンの巨額の予算を投じて建物面積941坪に及ぶ国民体育センターにプールを除外したのは明らかに間違った政策だと批判した。グアンナムドン唯一の小学校である塔洞小学校が東豆川市で唯一の生存水泳の授業を進める学校となった場合、近くの抱川市でも入学する学生が増加しただろうと述べた。また、町内のお年寄りたちがプールでアクアロビックと沐浴をして健康と対人関係を深めることができる機会を無くしてしまった東豆川市役所関係者を叱責した。今でも遅くないので、現在工事中の国民体育センターにプールとお風呂施設を追加するよう促した。新聞が発行されて一週間後に選挙運動が実施された。街で候補者の公約がかかった垂れ幕に「生存水泳のための複合体育施設建設」が書かれていた。これを見るや「こん畜生」より20倍程高い強度の汚い悪口が口の外に飛び出してきた。複合スポーツ施設ひとつだったら、小学校に水泳専用プールを少なくとも三つは作ることができるからである。効果も小学校専用プールがはるかに高い。

連日過去最高記録を更新する猛暑の中でたとえ屋内プールに身を浸せなくても、代わりに頭の中では、地域の体育市民活動という波で泳いでいる。地方選挙が終わって新しい長の任期が始まるや、東豆川市文化芸術分野の団体と市民社会は、<東豆川生活文化フォーラム：生活文化を通じた文化都市への方向模索>、<東豆川市民文化企画募集>、<東豆川インタビュー募集>など、さまざまな活動を行っている。一方、体育の方は真夏でも剛直な松のように一貫して変わりがない。既存の同好会中心の大会や行事を執り行うのに忙しい。息を深く吸って考えの波の下に入って潜水をする。なぜ体育分野は<東豆川生活体育フォーラム：生活体育を通じたスポーツの町への方向模索>、<東豆川生活体育企画>のようなイベントを進行できないのか。地域体育政策と地域スポーツの市民活動と流れは冷たいだけだ。中央と地域、日常生活やスポーツの温度差を考えて、体温よりも熱い熱帯夜を明かす。

01 オーマイニュース 2018.8.6

【 この炎天下に野球の試合は強行しろ？ク そうしたら大変なことに 】

これまでの野球やサッカーなどのアウトドアスポーツで天気が影響を与えるのは十中八九、雨天でした。雨がたくさん降り注ぐ梅雨時や台風が訪れた場合、屋外スポーツの正常な競技進行為が難しいからです。

しかし、今年に入ってから暑さが重要な要素として浮かびました。気象観測以来最悪の猛暑が長期間続き、アウトドアスポーツ競技運営に大変影響しました。むしろ雨の場合に野球は試合を中止して休息を取ることもでき、サッカーは通常、雨天でも競技が行われます。

しかし、今年のように40度を行き来するほどの猛暑には前例があまり無いとあって、まだ具体的な対応の規定やマニュアルが不足しているのが実情です。長期間殺人的な猛暑にさらされた状況で試合を消化しなけ

ればならない選手はもちろん、競技場を訪れた観衆たちの健康にも心配していない訳にはゆきません。

▲40度前後の猛暑、野球・サッカーなどのアウトドア競技種目はどうなる？

プロ野球とプロサッカーでまだ暑さのために試合が中止された事例はありませんでした。プロスポーツは、ほとんど熱が多少なりとも下がる夜の時間帯に試合が開かれるからです。昼の試合が可能な週末でも、夏には夜の時間帯に移すのが普通です。

プロサッカーKリーグは最近猛暑対策の一環として、いくつかの競技時間をいずれも午後8時に調整しました。Kリーグは夏期には通常、午後6時とか7時にキックオフをしたりしたが、時間をさらに遅らせました。また、いくつかの試合では「クーリングブレーキ (Cooling Break)」タイムが導入されたりもしました。試合中、審判の裁量で約2?3分戦いを停止させ、選手が水分を摂取したり、しばらく一息つけるようにする休憩時間です。

この制度は、暑さが猛威をふるった2008北京オリンピックで初めて導入されて肯定的な評価を受けています。プロサッカー連盟の規定では、キックオフ前に測定した気温が摂氏32度を超える場合には、審判が協議してクーリングブレーキを前後半各1回ずつ実施するようにしています。

プロ野球は最近の選手協会がプレーヤーの保護の観点で、韓国野球委員会 (KBO) のプロ野球の試合中止を検討して欲しいと要求したことが知られました。選手協会は猛暑が続く場合、競技開始時間を遅らせる案も検討してほしいと要求しました。しかし、KBOはアジア大会の休み時期やポストシーズン日程などの考慮事項が多く、試合中止とタイムゾーンの変更を受け入れるのは難しいと反対の意思を明らかにしました。ちょうど2軍の試合であるフューチャーズリーグではすでに何回も猛暑で試合が中止されました。

ファンの反応も概ね選手協会の主張については否定的です。他の種目や他の分野で活動する人々と比較して高いギャラと待遇を受けるとというのが主な理由です。「プロ野球選手が気温が高いと試合ができないという発想自体がぜいたくな苦情」だという非難もあふれています。

事実、試合中止や時間帯の変更はその場しのぎであるだけで、猛暑の根本的な対策とは言えません。夜でも熱帯夜が続く最近の状況では陽が落ちてても地熱が残っており、競技時間を少し遅らせても体感温度に大きな変化が生じることがありません。また競技時間をずらせば観衆の帰宅時間も一緒に遅くなります。サッカーはそれでも試合が延長戦にならない限り2時間で終わりますが、競技時間制限がない野球は試合が長くなると観衆に大きな不便を与えることがあります。いずれにしても8月中旬にアジア大会による休息期もあるので、すぐに猛暑による試合中止の可能性はそれほど高くありません。

ただし長期的に見た時、このような問題がいつでも発生しないという保証はありません。今はなくても、今後は猛暑のような「異常気象」で試合が中止されたり、時間帯の変更を真剣に検討する状況になる可能性は十分にあります。KBOは去る4月に「微細粉塵」によりプロ野球を4試合も中止する決定を下したが、これはプロ野球発足以来、初の出来事でした。アウトドアスポーツを脅かす異常気象の種類がますます多様化していることを見せた場面です。

▲「災害」レベルの気候現象、球場施設の問題もあらわになった

今日、猛暑や微細粉塵は、異常気象を越え一種の「災害」として扱われています。いくらプロ選手が体力的・精神的によく管理しても、一人一人の努力だけで克服するには限界があります。前後半を通してグラウンドを駆けまわらなければならないサッカー選手や、マスク・ヘルメットなど重装備を着用して暑い日差しのもとに立たなければならない野球選手や、鍛えられた職業運動選手でも人だけに難しいのは当然です。実際にはすでにハンファのジェラードホイン (訳注：ハンファイーグルスの外野手、米国出身) が試合中め

まいで交代するなど、何人かの選手は猛暑によるめまい、脱水、嘔吐などの温熱疾患の症状を訴えるケースが出てきて懸念も出ました。今まではしばらく休息を取って回復した場合はほとんどでした。しかし、もし深刻な人命被害が出たら、猛暑の中で試合を強行したことが大きな問題として指摘される可能性があります。ただ、猛暑事態がもたらした屋外スポーツ界に最も肯定的な影響としては、いまだ遅れている国内プロ競技場の「施設の改善」についての問題意識を再喚起させたことです。伝統的に暑さが激しいことで有名な大邱をホームとしているサムスはライオンズパークを建設し、ダッグアウトとスタンドに大型エアコンやミストノズルなどをたくさん設置して、他の球場に比べて快適な環境を構築したという評価を受けています。サムスが夏に入って強い姿を見せているのも球場効果と無関係ではないという分析も出ています。

一方、ハン・ヨンドク、ハンファ監督は去る7月28日、斗山と蚕室遠征を控えて前日の雨で試合時間が1時間近く遅れ、蚕室球場の施設の問題に苦言を吐いたりもしました。ホームチームの選手が広々とした快適なロッカールームで待機したのとは異なり、蚕室はアウェーチームの休憩スペースがきちんと整っておらず、選手が蒸し暑い廊下やダッグアウトで待機するために暑さにそのまま置かれて体調管理が困難となるということです。

蚕室球場は斗山とLG二球団が共同で使用するうえ球場の管理主体がソウル特別市体育施設管理事業所なのでホームが勝手に施設を改修することもできない状況です。ハンファのホームである大田球場をはじめ、昌原馬山球場（NC）、釜山社稷球場（ロッテ）なども施設が良くない代表的な野球場です。国内唯一のドーム球場であるゴチョクドーム（ネクセン）や光州起亜チャンピオンズフィールド（起亜）、ライオンズパーク（サムスン）など新築球場はそれでも事情が良い方です。球団レベルの問題を離れて野球界や自治体との間の継続的な協力と議論が必要とされている部分です。

▲春の微細粉塵、夏には猛暑...協会・連盟の対策講じなければ

気象問題について協会や連盟レベルの制度的な補完策も必要になります。KBOは試合当日、猛暑注意報が発令されている場合は審判員と競技管理人と協議して試合を中止するかどうかを決定することができる規定がありますが、実際に履行されたことはありません。Kリーグでは猛暑や温度に応じて試合開催するかどうかを決めることができるの詳細規定が全くないのが実情です。

長期レースを運営する野球やサッカーでは、今後7~8月の酷暑に限って「夏の休息期」を義務的に導入することも検討するに値します。特に野球の場合には、依然として無理な日程だと指摘される144試合体制の効率性についても再び議論が必要な部分です。

アウトドアスポーツだけではなく、現代社会の中で今、気候問題はますます災害レベルの深刻な懸案になってきています。スポーツ界でも最近の猛暑事態をただ今年だけに限った特殊な状況だとするのではなく、来年、再来年まで考慮した積極的な対策を考える時期です。

<https://sports.v.daum.net/v/20180806162700597>

02 日刊スポーツ 2018.8.7 【 大韓サッカー協会は戦犯旗にどう対処したか？ 】

サッカーの試合中に旭日旗、すなわち戦犯の旗が続けて登場し、大韓サッカー協会（KFA）の取り組みがこれまで以上に重要になっています。

徹底した準備で旭日旗がかかる状況を防止することはもちろんのこと、事件発生後も積極的な対応で混乱が広がることを防がなければなりません。

まず、これまでの **KFA** の取り組みを見ると国家代表間の韓日戦で即座に対応したという評価です。

2013 年に韓国で行われた東アジアカップ韓日戦で日本応援団が前半途中に広げた旭日旗事件が代表的です。これを見た赤い悪魔はシン・チェホ（訳注：申采浩、1880 年 - 1936 年、独立運動家）が残した言葉「歴史を忘れた民族に未来はない」を大きな垂れ幕に掲げました。李舜臣や安重根を描いた大型の肖像画も持って振りました。

KFA によると当初赤い悪魔は試合開始直前の大型垂れ幕を設置したが、**KFA** 側が「競技場で政治・宗教的メッセージや記号を表現してはいけない」と国際サッカー連盟（**FIFA**）の規定と大会規定を説明し、事前に大型垂れ幕をまとめて置くように措置した状態でした。

前半以降、旭日旗は制止されました。**KFA** の粘り強い説得に赤い悪魔側も横断幕を撤去しましたが、抗議の表示で韓国チームを応援を中断する事態まで起きました。

しかし、日本サッカー協会は競技直後、東アジア連盟の競技場に政治的内容の垂れ幕が出された点に抗議しました。さらに日本政府に記者会見を開いて遺憾を表しました。

これについて **KFA** は東アジア連盟に公文書を提供し日本サッカー協会に対応しました。

KFA は当時報道資料を出し、「サッカー大会中に発生した事案について、日本政府の官房長官に続き、文部省長官まで非難したのに対し、深い遺憾を表するもの」と明らかにしました。

続いて韓国応援団、赤い悪魔側の垂れ幕を撤去する過程に言及して「旭日旗は大韓民国国民に歴史的な痛みを呼び起こす象徴です。ところが日本の応援団はこの日の試合開始直後に大型旭日旗を振り回し私たちの応援団を大きく刺激したことが事態の発端」とし「日本の応援団が大韓民国首都の真ん中で大旭日旗で応援した事実は無視したまま韓国側の行為のみ浮き彫りにする態度はやめるべきだ」と強調しました。

遠征韓日戦が行われた 2012 年日本の 20 歳以下（**U-20**）女子ワールドカップでは、徹底した準備によって突然の旭日旗登場に落ち着いて対処しました。

KFA は韓日戦を控えて **FIFA**・大会組織委員会・日本サッカー協会などの関係者が参加した公式代表者会議で、最前列に旭日旗が出されることに懸念を示して、日本ファンの旭日旗搬入を事前に徹底的に調査してくれと要請しました。

このおかげで、この試合の観客席で旭日旗が出されたが、すぐに **FIFA** 安全担当官によって抑制されました。しかし、韓日戦を除けば **KFA** の取り組みは消極的だったと指摘します。

先月終わった 2018 ロシアワールドカップ **H** 組予選、日本 - セネガル戦では何人かの日本ファンが大型旭日旗を振る姿が中継画面を介して全世界に広がりました。日本は 1-2 でリードされた後半 33 分本田圭佑が同点ゴールを入れて相手のコーナー付近でセレモニーをしたが、その後、観客席で旭日旗が揺れていました。しかし、**KFA** 関係者は「**FIFA** や日本側に特別な抗議や措置を取らなかった」と言いました。

サッカーファンは「最近 **AFC** で旭日旗に厳重懲戒した事例があるので、**KFA** 次元の強力な抗議が必要だった」と失望感を隠せませんでした。

昨年、アジアサッカー連盟（**AFC**）チャンピオンズリーグ水原三星 - 川崎フロンターレリーグで川崎遠征ファンが水原ワールドカップ競技場で旭日旗を掛けたことについて **AFC** は、「川崎ファンの行動は相手チームに侮辱感を与えたり、政治的に認識されるスローガンを禁止する規定を破った。これを防げなかったチームの責任を求めた」と川崎球団に罰金 1 万 5000 ドル（約 1700 万円）を請求しました。

川崎球団懲戒当時も日本政府のスポークスマンである日本官房長官は「（旭日旗は）日本で幅広く使用されている」とし、問題はないというニュアンスで発言したが、**KFA** は沈黙しました。

KFA 関係者はこれについて、「AFC 主催大会はプロサッカー連盟が関与する。また KFA 関係者は、現場に行かない」と明らかにしました。

あるサッカー界関係者は、「旭日旗問題が韓日両国間の政治的に敏感な事案であることは事実」としながらも「旭日旗を取り出した日本がむしろ政府レベルで抗議するのを見る時、KFA をはじめとする韓国側の対応が物足りない時もある」と言いました。

<https://sports.v.daum.net/v/20180807060034787?d=y>

03 ヘラルド経済 2018.8.9 【 韓国人の IOC 委員はいない、失望だけ 】

「政府、韓国人の IOC 委員を追加排出に総力」平昌冬季オリンピック直前の去る 2 月初め、いくつかのメディアが報道した内容です。具体的に「政府は 10 月、アルゼンチン、ブエノスアイレスで開かれる 133 回国際オリンピック委員会 (IOC) 総会で、新しい韓国人 IOC 委員選出を目指して衆知を集める」としてあります。韓国は 2017 年李ゴンヒ、サムスグループ会長が辞任して IOC 委員がユ・スンミン選手委員 1 人しかいません。冬季オリンピックまで受けるなどスポーツ国力に比べ IOC 委員が格段に少ない事に政府レベルで出てきたものです。

「IOC 委員候補 9 人選出...韓国人はいない」、7 月 20 日 (韓国時間)、国際オリンピック委員会 (IOC) 執行委員会は 9 人の IOC 委員候補を選出しました。彼らは 10 月 IOC 総会の議決を経て最終的に選任されます。記事のタイトルが物語るように、2018 年には、韓国人の IOC 委員が出なくなりました。中国はすでに IOC 委員が 3 人で、日本は今回、渡辺守成国際体操連盟 (FIG) 会長が国際競技団体 (IF) の資格に追加され 2 名となります。

努力した結果がよくないときつく攻める理由はありません。問題はキャンドル革命で誕生した現政権のスポーツに対する認識が浅いし、また統合大韓体育会 (会長イギフン) はとても愚かだという点です。

●腕章つけたら、私たち勝手に？

まず、政府を見てみよう。元々 IOC は韓国の新しい IOC 委員に 2 人を推薦しました。しかし一人の年齢は高く、他の一人は企業活動を理由に固辞しました。これに韓国政府は何人かの候補を比較検討してからソ・ギョンベ、アモーレパシフィック会長を推薦しました。ソ会長は去る 6 月、スイスのローザンヌを訪れトーマス・バッハ IOC 委員長に会ったりもしました。

問題は 2 つです。一つ目は体育と関連性のない候補を推薦して、なることもならなくしたという点です。

「IOC としては本当に仕方ないでしょう。IOC 委員はオリンピック運動や、少なくとも自国でも体育に寄与したことが必要のためです。お金が多かったり自国で少し影響力があるという点で IOC 委員になることはできません。」IOC 内部に明るい人物はこう評価しました。財閥であり、与党の有力政治家と親交が厚いのは分かるがソ・ギョンベ会長がなぜ IOC 委員にならなければならないか、まったく説明されていません。政府もこの弱点を自ら知っていたのか、ソ・ギョンベ会長を推薦したこと自体を発表していません。本当にキャンドル政府らしくありません。

第二は、この過程での大韓体育会と全く協議しなかったという点です。IOC 委員候補を物色するなら、大韓民国のエリートと生活体育を総括する大韓体育会と相談することは常識です。ところが、大韓体育会側は「私たちも報道を見て知った。政府がどのような経路で、誰を、どのように推薦しているのか分からない」と答えました。これは「スポーツ界は政治権力の気持ち次第」という長い間つまり積もった政治勢力の認識

と違いがありません。特に、昨年イギフン会長が NOC（国内オリンピック委員会）資格の IOC 委員として IOC に申請したので、政府と大韓体育会の両方の意見調整はさらに残念です。

●この素晴らしい機会を台無しにするの？

大韓体育会も良くやったと言える事は一つもありません。いや、より大きな事が起きる前に姿勢を正さなければなりません。昨年イギフン会長の IOC 委員推薦の時、「セルフ推薦」という批判を受けたことは、その事情が正しく理解されず少し悔しい面があったとしよう。問題はイギフン会長の大韓体育会がスポーツ界の内外で本当に悪口をたくさん言われたという事実です。会長は宙に浮いていて、大韓体育会の要職にある人たちは会長の後ろに隠れて贅沢だけ享受しているという話があります。実際に会長と親交が厚い特定の宗教寄りの人間を重用して、何人かの体育会要人の専横がひどいという具体的な不満が出ています。会長が聞きやすい話だけする人を重用するという指摘も出てきます。

また、大韓体育会は主務省庁である文化体育観光部との間にも非常に良くありません。文体部がチェ・スンシル国政壟断（独り占め）過程で責任があるのは明らかです。ところが、だからといって大韓体育会が文体部をリードすることはできません。冬季オリンピック後の合同評価会を持つという文化体育観光部の提案を一蹴するのは傲慢極まりません。イギフン会長が政界実力者たちと親交が厚いかも知らないが、そうしたらいけません。また現実的に困難が多く、文体部が反対する「体育振興投票券（訳注：トト）発行事業収益配分」と関連して、署名運動など世論で当局を圧迫するのも良い解決策ではありません。すぐに大韓体育会について文体部の監査が発表される予定だが、何が飛び出すか心配されます。

イギフン会長はチェ・スンシル・キム・ジョンなどの積弊勢力が横行していた頃、ドラマのように「体育大統領」に当選しました。今の与党、当時の野党が彼を支持しました。キャンドル革命で政権が変わったからイギフン会長は虎が翼をつけた格好でした。「天運に乗った」という言葉まで出ました。ところが、1 年たった体育会とイギフン会長は以前の積弊のように批判を受けています。さらに彼を支持していた与党の実勢政治家が最近、「このままでは、イギフン会長が任期を満たさないこともある」という言葉を出しました。状況がこうなので、自分の IOC 委員推薦は無視され、新しい IOC 委員推薦の過程でも排除されたものです。

●2019 年南北の IOC 委員誕生

政権を握った政治権力やイギフン会長の大韓体育会、両方情けないです。手遅れになる前に、あるいは「新しい積弊」という言葉が説得力を得る前に気を引き締め謙虚に、そして原則通りの仕事を処理する必要があります。チェ・スンシル国政壟断事件もスポーツ界で初めて勃発しました。

韓国の IOC 委員と関連して来年はチャンスです。北朝鮮のジャン・ウン IOC 委員の任期が今年終了するわけで、来年 IOC が南北の IOC 委員を一人ずつ選出する可能性が高いといえます。スポーツ界の意を集めて、本当にまともな IOC 委員が来年には必ず出てきて欲しいです。

<https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=016&aid=0001427555>

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305 号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305 호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fgep@jarl.com